

2005年12月1日

## 2006年「白いリボン運動」の取組について

民が民の社会貢献活動を支える仕組みを！

白いリボン運動実行委員会  
代表 岡本 仁宏  
(関西学院大学法学部教授)

はじめに

2006年白いリボン運動への参加を呼びかけます！

2005年に市民が市民の活動を支えるために再生した白いリボン運動は、1、新しい資金配分の流れを生み出し、また、2、広範な人々の理解と協力のネットワークを作り上げること、に成功しました。2006年は、この成果をもとに、下記の方針で展開いたします。皆様の積極的なご参加を呼びかけます。

### 1、運動の経緯と昨年度の運動の成果

阪神淡路大震災の被災地にあり、自らも被災しつつ活発な被災者救援活動に貢献した「関西学院ヒューマンサービスセンター」(震災時の「関西学院救援ボランティア委員会」の後継組織)では、震災の年の翌年より、2002年まで毎年「**白いリボン運動**」を呼びかけてきました。これは、震災の犠牲者に対する追悼、支援してくれた方々への感謝、そして、再生の決意という三つの意味を込めた、市民の意思表示の方法として、白いリボンを胸につけてお互いの気持ちを確認しようというものでした。この運動は幅広い支持を集め、被災地のみならず、全国で多くのNPO、ボランティア団体の協力を得て、毎年数十万本の白いリボンが配付されてきました。

この運動は、震災の記憶が薄れ、多くの人々のなかで震災の記憶が風化し始めていた状況のなかであって、単なる意思表示では運動が形骸化するのではないかという危惧の声を受けて、2002年には運動の意義を再検討するために、いったん中止されることになりました。

そして、2004年に、新しい位置付け、意義を担った、第二次白いリボン運動が再生することになりました。白いリボン運動は、震災の際に明らかになった**日常の人のつながりと自治の営みの大切さという教訓を得て、その先頭をになって活動する新しいNPO法人に対する幅広い民間募金の通路として、さらにNPO法人を中心とする新しいNPOの社会的プレゼンスの向上のためのツールとして生まれ変わりました。**

そして、2005年の募金活動は、事務局で把握しているだけでも、**400近い団体個人の参加、全国37都道府県、総額で¥6,299,174の募金を集めました。** そのお金から、独立の配分委員会の公正で真摯な審査を経て、40団体に対して総額¥4,000,000を助成しました。当初の配分方針どおり、緊急災害支援をするNPOや「災害弱者」を普段から支える活動をしているNPO、さらに地道な市民活動を行っている様々な領域のNPO等への助成です。

この会計処理は、内部監査、及び公認会計士による外部レビューを経て、公正に行われたことが確認されています。さらにホームページにおいて情報公開をしております。

白いリボン運動は、市民社会を支える幅広い活動への民間の資金循環の仕組みのひとつとして、広く一般市民に支えられた運動に持続的に発展していくための、貴重な第一歩を踏み出しました。こうして、震災10年を経て、白いカタツムリ（シンボルマーク）は生まれ歩き出しました。

## 2、2006年の運動方針と重点

(1) 白いリボン運動は、2005年の運動の基本方針を維持します。

白いリボン運動は、1、**祈念、感謝、創生**という三つのコンセプトを継承し、さらに、2、**日常の人のつながりと自治の営みの大切さ**を重視し、3、**NPO法人に対する幅広い民間募金の通路**としての取組を行い、この運動を通じて、4、**NPO法人を中心とする新しいNPOの社会的プレゼンスの向上**、を目指します。

(2) 2006年度の重点方針

この伝統と運動の成果を持って、2006年には、一層「**日常の人のつながりと自治の営みの大切さ**」を支援するために、昨年度構築されたネットワークを維持発展させるとともに、以下の2点を追加的運動の重点として提起します。

### **地域での民間社会貢献活動を持続的に支援する仕組みを発展させよう。**

この方針は、地域でのNPOをはじめとする民間非営利社会貢献活動を継続的に支援できるような地域での資金や人の善意の流れをきちんと組織化する、そのためのツールとして白いリボンを位置づけようということです。具体的には、**地域での既存コミュニティ・ファンド、信託基金、奨学金など多様な民が民を支援する組織をネットワークし(「コミュニティファンドネットワーク」)**、さらに**新しい民間寄付の幅広い受け皿となれるような包括的なコミュニティ・ファンドの形成を支援する**ということです。白いリボン運動が、「民が民を支援する」シンボルとして、多くのNPO、さらにその支援ファンドの共同行動として取り組まれるようにしていきましょう。

## **NPO に対する他社会領域からの支援を強化・組織化しよう。**

もう一つの重点は、**NPO セクターに対する企業セクター、労働セクターなどの他のセクターからの支援を組織化する**ことです。すでに、企業は、様々な形で社会的責任（Corporate Social Responsibility）を果たそうと、社会貢献活動にも積極的に取り組み始めています。また、労働セクターも、新しい運動の展開として地域の非営利社会活動との連帯に取り組んでいます。世界的に見ても、NPO セクターは営利事業と異なり、常に他のセクターからの継続的支援と連携の下に発展してきました。また、このような民間での民を支援する仕組みの強化を一つの基盤として、行政セクターによる支援を自立的にコントロールできる力も発展させることができるでしょう。NPO 自身による大衆的民間募金活動の組織化とともに、他セクターとの共同行動、他セクターによる NPO セクター支援のための取組を強化しましょう。

### （ 3 ） 配分先の重点

白いリボン運動は、昨年度、「**全体として新しい市民社会セクターの強化のために幅広い領域での支援を行い領域限定は行わないが、年度ごとに一定の重点を提示する**」ということを方針として再生しました。初年度は、「防災、障害者・高齢者など災害弱者の支援を重視しつつ、幅広い領域の NPO 法人を中心とした市民活動団体」に配分しました。

2 回目当たる 2006 年度は、「**まちづくり、福祉、災害救援を重視しつつ、幅広い領域の NPO 法人を中心とした市民活動団体**」に配分する、という方針を提示いたします。

おわりに

毎年 1 月 2 月には、多くの新しい NPO 法人が共に白いリボンをつけて行動し、街頭や事務所で、またそれぞれの取り組みの際に示すことによって、この新しい社会セクターの息吹を社会的に示すことができるでしょう。こうして、白いリボンが普段お互いに知らない NPO 法人の活動をお互いに確認しあうよい機会にもなるでしょう。

この運動が日常的な人々の自治の営みと人と人とのつながりを強化し、私たちの社会が、あの時は助けられなかった人々を、来るべき災害の際には助けられる力を持てるようにしていこうではありませんか。新しい市民社会セクターの活動に力を与え、その息吹を示すような新しい白いリボン運動へのご協力を訴えます。

白いリボン運動全国実行委員会・実行委員

石井伸弘 NPO法人市民フォーラム 21・NPOセンター事務局長  
石井布紀子 (有)コラボネット代表取締役  
国枝哲男 NPO法人コミュニティサポートセンター神戸事業本部長  
黒田裕子 NPO法人しみん基金 KOBE 理事長  
実吉威 NPO法人市民活動センター神戸理事長  
高松直助 関西学院ヒューマンサービスセンター学生運営委員  
田中太郎 おおさか元気ネットワーク  
中村順子 NPO法人コミュニティサポートセンター神戸理事長  
野崎隆一 NPO法人神戸まちづくり研究所事務局長  
能島裕介 NPO法人ブレンヒューマニティー理事長  
深尾昌峰 NPO法人きょうとNPOセンター常務理事・事務局長  
岡本仁宏(委員長) 関西学院大学法学部教授

白いリボン運動全国実行委員会・事務局

江口聡 〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 2-13-1 森田ビル4F(特活)CS神戸内

呼びかけ団体

NPO法人ブレンヒューマニティー  
NPO法人コミュニティサポートセンター神戸  
NPO法人市民活動センター神戸  
NPO法人宝塚NPOセンター  
NPO法人奈良NPOセンター  
NPO法人きょうとNPOセンター  
NPO法人しずおかNPOセンター  
おおさか元気ネットワーク  
関西学院大学ヒューマンサービスセンター